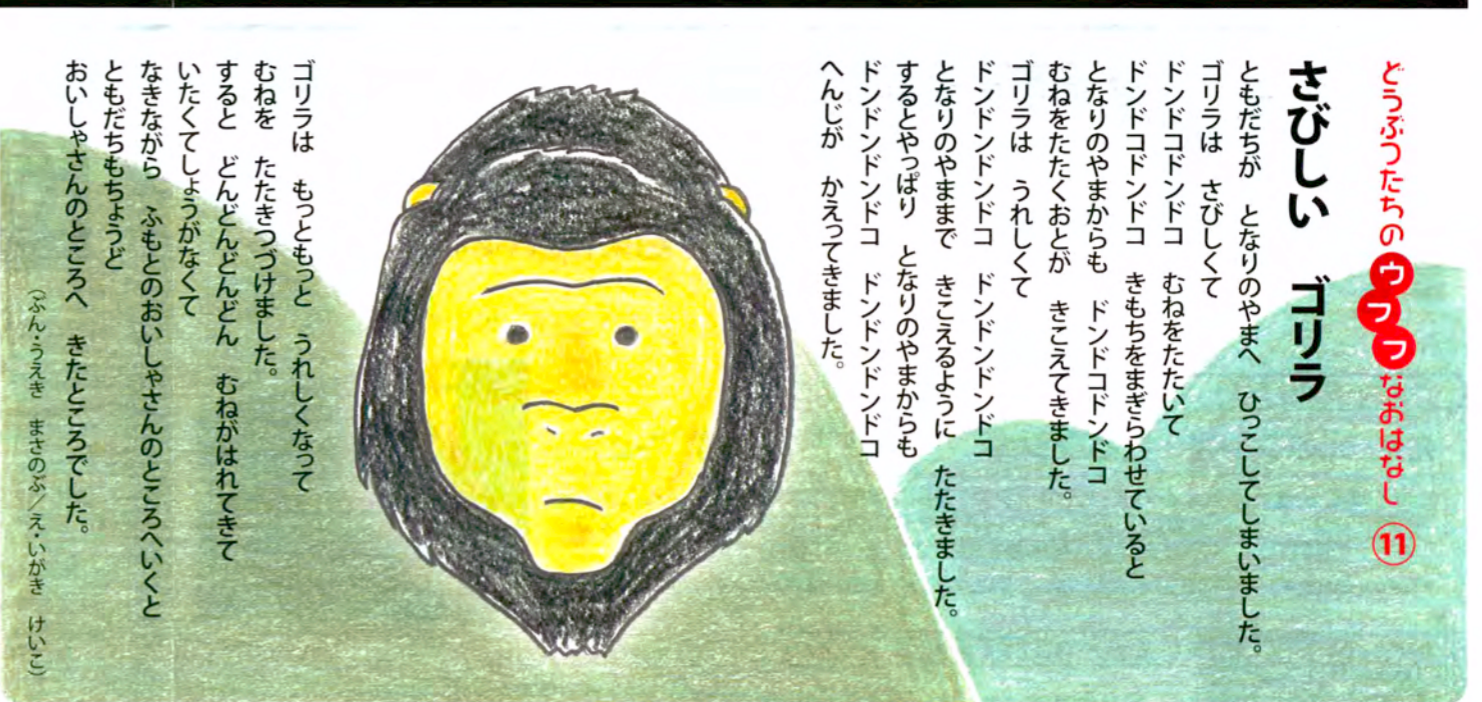


こどもの城 ニュース

KODOMO NO SIRO
NEWS

2010・2・1 NO. 214 発行 / (こどもの城) 広報部 ☎03-3797-5674
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
http://www.kodomonono-shiro.jp



ゴリラは もつと もつと うれしくなつて
むねを たたくつけました。
すると どんとどんとん むねがはれてきて
いたくしょうがなくて
なきながら ふもとのおいしさをとるへいへと
ともだちもつとつと
おいしやさんのところへ きたとこつてした。
(ふんとうえき まさのふんえいなき けいこ)

とどろが とどろのやまへいこつてしまひました。
ゴリラは さびしく
ドンドコドンドコ むねをたたいて
ドンドコドンドコ きもちをまぎらわせていよう
とどろのやまからも ドンドコドンドコ
むねをたたくおとが きこえてきました。
ゴリラは うれしく
ドンドンドンドコ ドンドンドンドコ
とどろのやままで きこえていよう、 たたくきました。
するとやっばり とどろのやまからも
ドンドンドンドコ ドンドンドンドコ
へんじが かえつてきました。

11

暗くした広い空間で〈映画〉を楽しむ「こどもの城映画劇場」

“短編アニメーション” 中心に

上映の前に、楽しく見るためのポイントをかんとんに説明



〔こどもの城〕では、日本では見る機会の少ないカナダのアニメーションを中心とした“短編アニメーション”を「こどもの城映画劇場」で定期的上映しています(夏休みなどの特別期間をのぞく毎月第2日曜日。Bスタジオ)。ほとんどの作品が16mmフィルムにおさめられた〈映画〉です。DVDと大型テレビで、家のなかで映画を楽しむ人が増えていますが、「こどもの城映画劇場」では暗くした広い空間で大きなスクリーンに映写して、みんなで“短編アニメーション”の〈映画〉を楽しんでいます。

いろいろなアニメーションに出会える

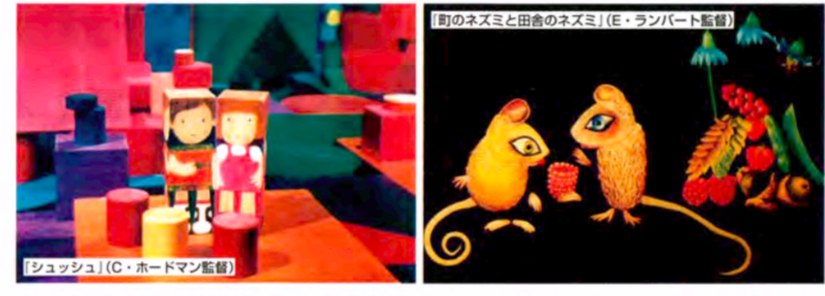
アニメーションという言葉を知ると、毎週テレビで放送している“テレビアニメーション”や映画館で上映される“長編アニメーション”をおもいうかべる人が多いと思います。しかし、このほかにもたくさんのアニメーションがあります。“短編アニメーション”と呼ばれるもので、世界でも日本でも、子ども向けから大人向けまで、さまざまな作品が作られています。

「こどもの城映画劇場」では、見る機会の少ない“短編アニメーション”を多くの子供たちに見てほしいと願って、定期的上映を行っています。世界各地の映画祭でたくさんの賞をとっている、カナダ国立映画制作庁(National Film Board of CANADA)の作品を中心にしたプログラムです。〔こどもの城〕の武藤雄雄記念文庫(フィルム・コレクション)には、140作品を超えるNFBCを中心とした“短編アニメーション”が集められています。



海外の作品と聞くと、〈言葉〉を心配する人がいると思いますが、NFBCの多くの作品は“言葉がなくても理解できる”ように作られています。いろいろな言語を使う人がいるカナダでは、言葉にたよらないでコミュニケーションができるように作っているのです。しぐさ(動き)や音(音楽や効果音など)などをじょうずに使って、言葉(せりふ)がなくても登場人物の考えていること、心の動きなどが理解できるようになっています。

“短編アニメーション”の世界では、スクリーンに映し出される映像



の美しさ(色・光や動きの変化など)そのものを楽しむ作品もあります。“ストーリーがない”映画です。夏の夜空に大きく開いて消えていく花火の楽しみ方に似ているかもしれません。「すいすいすころばし」の歌のように、言葉の意味は分からなくても、トントントンとリズムにのせられて楽しくなるのと似ているのかもしれない。

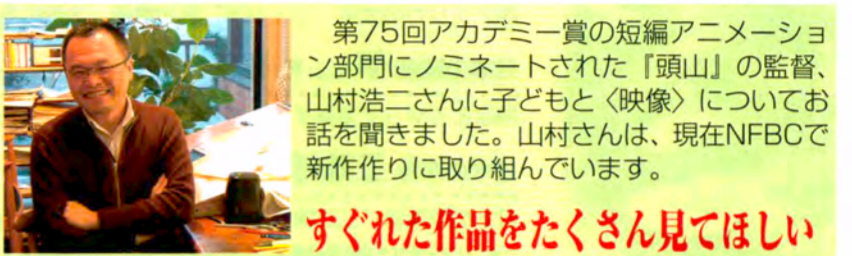
“テレビアニメーション”の多くは、えがいた絵が動きます。“短編アニメーション”には、さまざまなもの(人形、ねんど、積み木、紙など)を使って作ったものがあります。いろいろな作り方をした作品に出会えるのも、“短編アニメーション”のおもしろさです。

映画の楽しみ方を身につけてほしい

「こどもの城映画劇場」では、上映の前にかんとんな説明をします。「せりふはないけれど、どんな気持ちでいるのかを考えながら見てみよう」「音楽にあわせて踊っているように見えるよ」など、楽しく見ることができるポイントを伝えます。映画を楽しむ方法を身につけてほしいと考えるからです。

上映後のアンケートには、「さいごに、なかよくなつてよかった」などの感想が書かれていて、しぐさと音だけで主人公の気持ちを理解してくれていることがわかります。線しか画面に出てこない「垂直な線」(N・マクラレン監督)という、ちょっと変わった作品でも、「線が集まったり、離れたたりして踊っているようでおもしろかった」と感想を書いた子どももいました。

「ちょっと説明するだけで、子どもたちは映画の楽しさ、おもしろさ



第75回アカデミー賞の短編アニメーション部門にノミネートされた「頭山」の監督、山村浩二さんに子どもと〈映像〉についてお話を聞きました。山村さんは、現在NFBCで新作作りに取り組んでいます。

すぐれた作品をたくさん見てほしい

私たちのまわりに〈映像〉があるのがあたりまえになったけれど、どういふふうに〈映像〉を見たらよいかを教育する場がありません。子どもたちの感性を育てるためにも、見てほしい作品はいっぱいありますが、(上映の機会も少なく)見てもらえない。見せる側が作品を選んで、子どもたちに見せていくことをしていかないと、まずいのではないかと。(美術の時間に)絵画を見ながら、作品として〈映像〉を見る機会を作ることが必要だと思ふ。

〈見る〉ことが、アニメーション作りのうえで勉強になっています。〈見る〉ことから得るものは、すごく多いと思います。いい作品を見てもらう——これが、いちばんのリテラシー(映像を理解すること)になると思います。「武藤雄雄記念文庫」にあるNFBCの作品は、どれもすぐれた作品です。積み木を使って作った、コ・ホードマンの「シュッシュ」は、大好きな作品のひとつです。ほかにも、見てほしい作品がいっぱいあります。

「こどもの城映画劇場」のように、作品の解説をしながらかんとんに上映するのは、子どもたちが〈映像〉とふれあうきっかけとして有効な方法だと感じました。〈映像〉を読み解いたうえで、ヒントを出さなければならぬというたいへんさはあると思いますが……。どういふ見方(ものがたりを楽しむ、造形的な美しさを楽しむなど)をすればよいか——〈映像〉の楽しみ方を知るための“案内書・教科書”のようなものが必要かもしれません。

小さいときに見た〈映像〉は、心のどこかに残っていたりします。その後の感受性などにも影響してくるのではないのでしょうか。すぐれた〈映像〉を見て、自分で〈映像〉を読み解く力を身につけることが必要だと思ふ。

を理解してくれれば、だから、いろいろな“短編アニメーション”を子どもたちに見せること、見てもらうことがとても大切だと感じています」と、担当者。

「子どもたちが見たい作品を選んで見るといっても、子どもたちが知っている作品は限られています。大人の側からすぐれた作品にふれる場を作ることが必要ではないでしょうか。絵本などは、親が読んで読み聞かせをしています。文芸作品は、夏休みの課題図書というかたちで、子どもたちが読まなければならない環境を作っています。映像も、すぐれた作品にふれることができる環境を大人が作っていくことが必要です。こどもの城映画劇場が“短編アニメーション”などとふれあえる場として利用してもらえればと思います。」

こどもの城の講座とクラブ

平成22年度(2010年度) 午前10時から
第1期受講生 2月18日(木) 受付開始!

ふれあいを大切にしながら、子どもたちの“育ち”をサポートする〔こどもの城〕の元気いっぱいの講座・クラブ——4月から始まるコースの受講生を募集します。〔こどもの城〕のさまざまなところでスポーツ、音楽、造形などの“遊びのプログラム”を実践しているスタッフが中心となって指導。楽しさいっぱい、仲間もいっぱい講座・クラブです。

親子で一緒に参加するもの、幼児・小・中・高校生の子供たちを対象にしたもの、そして子どもをとりまく大人たちを対象としたものまで、さまざまなコースがあります。

くわしくは「講座・クラブ受付係」(03-3797-5666)へお問い合わせください。ちらしも用意してあります。ホームページもご参照ください。

夢をかたちに

夢をかたちに。

私たちはいつだって、未来に向かってすすんでいます。

だからいま、未来に向けてついています。

自由と安心に満ちたITサービスと、心をつなげるネットワーク。

そして、美しい地球を守っていく仕組み。すべての夢を、かたちにするために。

富士通は、挑みつづけます。

